

# 算数授業のめあてとポイント

令和8年1月号

東京書籍対応

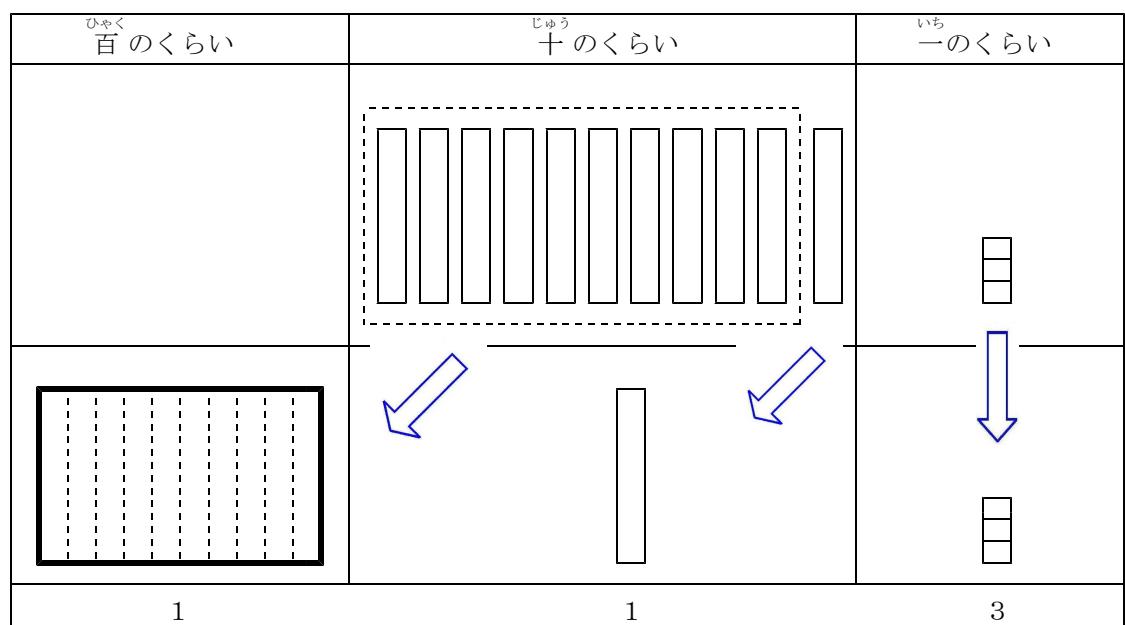
☆ 思考力・説明力を重視した「単元のめあて」を意識し、「授業のポイント」に留意することで、児童が主体的・対話的に学びを深めて、学力の向上が図られるようになります。

※「単元のめあて」枠内の漢字に、ルビを振っている箇所があります。ひらがなと漢字どちらを使うかは、学習進度などを勘案して指導者で判断して下さい。

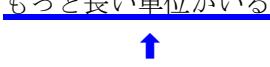
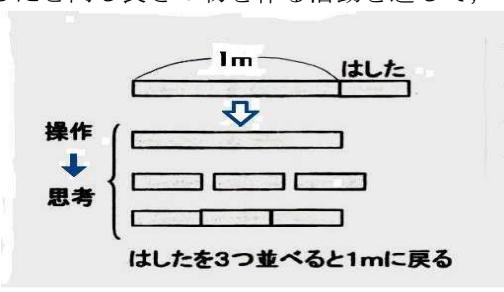
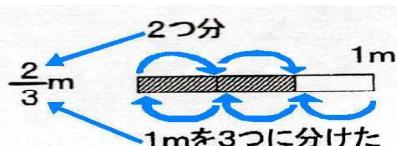
(K…啓林館, G…学校図書, T…東京書籍)

学年	単元	単元のめあてと授業のポイント
1年	2巻⑭ おおきい かず  同様単元 K1月⑯ G1月⑮	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <p>10が なんこもある <sup>おお</sup> 大きいかずの、 かぞえかた・かきかた・くらべかた・ けいさんの しかたを かんがえて、 はなそう。</p> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>数の表し方については、1位数の段階で1巻 p.32 のように「0」を理解し、そこから十進位取り記数法に基づいて2位数の表し方を理解することを提案している。そして、9月号で既に「へや」を「くらい」と呼ぶことを知らせている。 本単元では、120程度までの3位数について、数の構成や表し方を指導する。</li> </ul> <p>《学習1》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>p.91～96では、10の「まとまり」で数えたり表したりする良さが、感じられるようにする。 導入「棒取りゲーム～どちらがたくさんとったでしょう～」</li> <li>2人組でさいころの目の数だけ棒を取る。 これを何回も繰り返す。</li> <li>数が多くバラバラですぐには数えられないで、『誰にも分かるようにして、学級チャンピオンを決める。』等の数学的活動をする。</li> </ul> <p>場の設定(10のまとまりを作る必要感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>誰かに結果を報告しなければならない。 (表記する必要感)</li> </ul> <p>《学習2》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>p.97～99では、数学的な考え方を大切にして、100の表記の仕方を考えるようにする。 1が10集まると1つ左の部屋(十の位)に1繰り上がる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">↓ 同じように考えて</p> <p>10が10集まると1つ左の部屋(百の位)に1繰り上がる。</p> <p>百の位の名称は知らせる。</p>

じゅう 十のくらい	いち 一のくらい
□ □	
2	3



	<ul style="list-style-type: none"> <li>p.100～101では、100までの数の表記を基に、120程度までの3位数が読んだり書いたり比べたりできるようにする。</li> <li>p.102～104では、2位数までの数について、「<math>30 + 20</math>」や「<math>50 - 20</math>」等10を単位として加減の計算をしたり、「<math>25 + 3</math>」や「<math>25 - 3</math>」等繰り上がりや繰り下がりのない計算をしたりする。</li> </ul>								
2巻⑯ どちらが ひろい	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">         ものの ひろさの くらべかたを かんがえて、はなそう。       </div>								
同様単元 K 3月⑬ G11月⑬	<p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広さについて、「直接比較→間接比較→任意単位を用いた比較」の順に、必要感をもって比較する。 《直接比較→間接比較に進むには》直接比較ができない場面を扱う。 (例)児童用机と給食台等の広さを、一方を模造紙に写し取って比べる。 《間接比較→任意単位に進むには》間接比較ができにくい場面を扱う。 (例)違う場所にある掲示板の広さを、掲示できる画用紙の枚数で比べる。</li> </ul>								
2年 下巻⑬ 4けたの 数	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">         1000より大きい数の あらわし方・しくみ・くらべ方を 考えて、せつ明しよう。       </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>p.50～51では、1円玉(偽銭も可)を1万個用意し、募金として手分けをして数える等の数学的活動を工夫することで、100のまとまりを10まとめて1000のまとまりを作る必要があることが理解できるようになる。10, 100, 1000のまとまりにすると、数えやすく位ごとに数を表しやすい。</li> <li>p.52～54では、数の表し方を理解するために、位を先に書いて位ごとに数字を書いたり 位ごとに縦に数字を読みだりする習慣を身に付けることが、大切である。</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: center;"> <table border="1" style="margin-right: 20px;"> <tr> <th>千</th><th>百</th><th>十</th><th>一</th></tr> <tr> <td>4</td><td>0</td><td>6</td><td>0</td></tr> </table> <span style="font-size: 2em;">↑</span> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-left: 20px;"> <p>千円札で 2枚 百円玉で 20枚 十円玉で 200枚</p> <p>子ども銀行で 両替ゲーム等 をすると、よく 分かる。</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>p.56の右のような数の多面的な見方は、数の仕組みの理解や大きな数の計算に役立つ。</li> <li>p.58では、次のようにして10000が理解できるようになる。 100が10集まって、1つの左の部屋(千の位)に1繰り上がる。同じように考えて、1000が10集まると1つ左の部屋(一万の位)に1繰り上がる。 「一万の位」の用語は、知らせる。</li> <li>p.57・59では、数直線上に数を表したり 千とび・百とび・十とびの数を作ったりして、数の比べ方が理解できるようになる。</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>1000      2000      <input type="text"/></p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>4000      5000      <input type="text"/> <input type="text"/> 8000</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;"> <p>8900      <input type="text"/> 9100      9200      <input type="text"/> 9400      9500      <input type="text"/></p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>1930      1940      <input type="text"/> 1960      1970      <input type="text"/> 1990      <input type="text"/></p> </div> </div>	千	百	十	一	4	0	6	0
千	百	十	一						
4	0	6	0						

<p>下巻⑭ 長いもの 長さの たんい</p> <p>同様単元 K1月⑯ G1月⑰</p>	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">         なが かた かんが めい 100 cmをこえる長さの はかり方や計算のしかたを 考えて, せつ明しよう。       </div> <p>※上巻④「長さのたんい」で測った長さを 大きく超える長さを 測ったり計算したりすることから、単元のめあて(上に記載)が つかめるようとする。</p> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>p.65 ~ 66 では、1 m の単位の導入では、「30 cm ものさしで測ると 面倒な場面」を設定する。教室の床(縦、横)の長さを測る等の数学的活動をする。</li> </ul> <p>→ 長い単位の必要感が生まれる。</p> <div style="text-align: center; margin-bottom: 10px;">  <span style="margin: 0 20px;">↑</span> <span style="margin: 0 20px;">→</span> <span style="margin: 0 20px;">↑</span> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>児童に考えてほしいこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>p.66 ~ 68 では、1 m = 100 cm 10 cm のテープを 10 本並べたり,自分の体のどこからどこまでが 1 m になるかを調べたりして、量感がもてるようとする。 (1 m = 10 cm の間違いが時々見られる。)</li> <li>自分の「ひろ」「あた」「つか」を測っておくと、           <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位換算の誤りが少くなる。</li> <li>・概測の力が高まる。</li> </ul> </li> </ul> </div> <div style="text-align: center;"> <p>知らせること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>p.67・70 では、1 つの単位に直して計算したり 単位ごとに計算したり できるようとする。 (例) 1m20 cm + 90 cm ← 120 cm + 90 cm = 210 cm = 2m10 cm 1m + (20 cm + 90 cm) = 1m + 110 cm = 2m10 cm</li> </ul> </div> </div>
<p>3 年</p> <p>下巻⑮ 分数</p> <p>同様単元 K11月⑯ G1月⑮</p>	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">         1 より小さい数の 小数とはべつの 表し方・しくみ・くらべ方・たし算ひき算のしかたを 考えて, せつ明しよう。       </div> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ストーリー化された問題の例</li> </ul> <p>《 問題 》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>1 m と はしたの テープがあります。</p> <p>しかし、メートル国では、1 m の たんいしか つか 使えません。</p> <p>テープの長さを 数字で 表せるようにしましょう。</p> </div> <p>*はしたの長さを小数で表されない <math>1/3</math> m などにしておく。</p> <p>問題の核心 (= 課題) 「はしたの長さを m で表そう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 m のテープを折ったり切ったりする等 はしたと同じ長さの物を作る活動を通して、「1 m を 3 等分した 1 つ分の長さ」という概念を作ることが大切である。</li> <li>1 m を 3 等分した長さを 3 つつなぐと、1 m に戻ることを確認する。</li> </ul> <p>課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 m を 3 つに分けた 1 つ分 <math>\Rightarrow 1/3</math> m</li> </ul> <p>(問題解決) 1 m と <math>1/3</math> m</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 m を分ける操作と分数の表示が、つながるようにする。</li> </ul> <div style="text-align: right; margin-top: 20px;">  </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>分子／分母 → 「子が母と同じになれば 1 人前」</li> <li><math>2/3</math> m は <math>1/3</math> m の 2 つ分のように、分数の仕組みが理解できるようにする。</li> </ul>

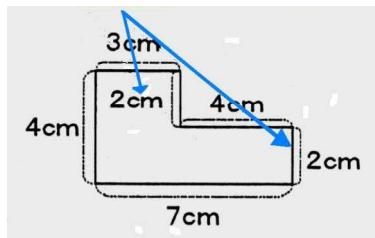
- ・分数指導の系統と学年  
操作(分割)分数 → 量の分数 → 数としての分数 → 商分数 → 割合分数  
【素地となる活動】 (3年) (3年) (5年) (5年)  
(2年)
- ・p.49～52では、分数の大きさを線分図や数直線に表したり 数直線で示された位置の分数や小数を書き入れたりする数学的活動によって、単位分数の大きさと個数の関係や 分数の大小が理解できるようとする。
- ・p.53～54では、簡単な場合の同分母分数の加減の計算は、単位分数を基にすれば 整数と同じように計算できることが、理解できるようとする。

	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <p>□を 使った式</p> <p>同様単元 K2月⑩ G2月⑯</p>	<p>分かっていない数を□として、文章のじゅんに図に表したり 式に表したりして かんけいや もとめ方を考え、せつ明しよう。</p> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「未知の数量を□として、文章の順序に沿って児童自身が数量の関係を図に表したり立式したりして、そのことが説明できること」を目標とする単元である。</li> </ul> <p>図</p> <p>「学級文庫が38さつあります。」</p> <p>「新しい本を何さつか買ったので」</p> <p>「全部で50さつになりました。」</p> <p>しき      <math>38 + \square = 50</math>  <math>\square = 50 - 38</math>  <math>\square = 12</math></p> <p>答え      12さつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「□+4=16」等の□を求める場合は、「□にいろいろな数を当てはめる方法」と「逆算によって求める方法」とがあり、どちらの方法も経験できるようとする。</li> </ul>
--	--	--

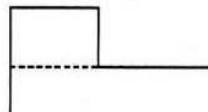
4年	<p>下巻⑫ 面積の くらべ方 と 表し方</p> <p>同様単元 K10月⑩ G11月⑭</p>	<p>◎単元のめあて(板書例)</p> <p>長方形や正方形などの 広さの求め方を考えて、説明しよう。</p> <p>◎授業のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>p.58～59の導入では、周りの長さが同じ形の広さ比べをして、長さと広さが別のものであることに気付くようとする。</li> <li>p.60～63では、長方形や正方形の面積を求める公式を、<u>単位面積(1cm<sup>2</sup>)の個数を計算する式</u>として理解できるようとする。</li> </ul> <p>長方形の面積 = 1 cm<sup>2</sup> × [縦(横)の長さを表す数] × [横(縦)の長さを表す数 ]  = 縦(横) × 横(縦) [単位面積(1 cm<sup>2</sup>)の個数を計算する式]  ※ 「縦(横)の長さと横(縦)の長さを掛けると面積になる。」という誤りを生まないために、  <u>「単位面積(1 cm<sup>2</sup>)の個数を計算する式」</u>を併記するように提案します。</p>
----	---	--

- p.65～67にある図形の面積を求める問題は、長方形・正方形の面積を求める公式を基に、児童の創造力を伸ばしていく場面である。「分ける」「引く」「動かす」などの方法が考えられるが、どの方法も5年⑬「四角形と三角形の面積」の学習に役立つ。だから、ここでは「どれか1つの方法が良い。」と絞るようなことはしない。

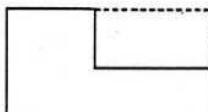
\*同じ長さでないと「動かす」はできない。



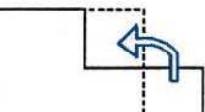
ア 分ける



イ 引く



ウ 動かす



- 「分ける」「引く」「動かす」の既習事項は、1年2巻⑯「かたちづくり」の中にある。
- 児童の意識の流れを考えて、「 $1\text{cm}^2 \Rightarrow 1\text{m}^2 \Rightarrow 1\text{a} \Rightarrow 1\text{ha} \Rightarrow 1\text{km}^2$ 」という単元構成も考えられる。町や県などの地図で、 $1\text{km}^2$ の量感がもてるようになる。

5年

下巻⑭  
割合

◎単元のめあて(板書例)

もと基にする大きさが異なるときの くら比べ方や表し方を考えて、説明しよう。

※基にする数量(基準量)が異なる場合は 差では比べられないことに気付いて、  
単元のめあて(上に記載)がつかめるようにする。

◎授業のポイント

- 基にする大きさ(基準量)を1と見て、比べられる大きさ(比較量)がいくつに当たるかを表した数を割合という。このことを基に、百分率と歩合が理解できるようにする。
- 「比べられる量 ÷ もとにする量 = 割合」から「もとにする量 × 割合 = 比べられる量」や「比べられる量 ÷ 割合 = もとにする量」を導いて、割合の問題に活用できるようにする。

下巻⑮  
帯グラフ  
と  
円グラフ

◎単元のめあて(板書例)

割合を表すグラフのかき方や読み方を調べて特徴を考え方したり 割合を表すグラフを使った問題の解き方を考えたりして、説明しよう。

◎授業のポイント

- p.82～85の帯グラフや円グラフでは、「全体と部分の割合」や「部分と部分の割合」が読み取れるという良さが理解できるようにする。
- p.89の複数の帯グラフ(円グラフ)を比べる場合は、全体の数を記入することで割合の変化だけではなく割合が増えてても(減っても)全体の数が減れば(増えれば)部分の数が減ったり(増えたり), 割合が同じでも全体の数が増えれば(減れば)部分の数が増えたり(減ったり)することが、理解できるようにする。
- 統計的な問題解決の場面では,
  - ①問題を設定する。②計画を立てる。③データを集めて分類整理する。
  - ④グラフや表に表して分析する。⑤問題の結論をまとめる。
 この①～⑤の手順を経験することが大切である。

6年

データを  
使って  
生活を  
見なおそ  
う

◎単元のめあて(板書例)

データを活用した問題の解き方を考えて、説明しよう。

◎授業のポイント

- 統計的な問題解決に当たっては、①問題を設定する。②計画を立てる。③データを集めて分類整理する。④グラフや表に表して分析する。⑤問題の結論をまとめる。この①～⑤の手順が経験できるようにすることが大切である。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結論や問題解決の過程を 資料の値の量・比較の条件などから振り返ってみて、客観的に信頼でき妥当であるかどうかを 論理的に考えられるようにする。</li> </ul> <p><b>【小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 算数編 p.306 ~ 312 D(1) 参照】</b></p>
⑯ 算数の しあげ 同様単元 K2月3月 G1月2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理解の差が大きいので、4年から6年までの教科書を持ってきて、児童自身が振り返りながら復習できるようにする。</li> </ul>

<お知らせと お願い>

「算数授業のめあてとポイント」や「算数教育 情報コーナー」等をご覧いただき、日々の実践に役立てて下さい。

なお、これらについての ご意見ご質問および「算数教育ネットワーク岡山」の活動への参加希望は、

[seiden?atmark?po.haren.net.ne.jp](mailto:seiden?atmark?po.haren.net.ne.jp) まで Mail でお知らせ下さい。

(スパム対策です。お手数ですが?atmark?を、@に直して下さい。)